

作成年月日	平成26年9月8日
作成部局	教育委員会事務局社会教育課

阪神・淡路大震災20年展

だまし絵Ⅱ

Visual Deception II Into the Future

何度でもだまされたい！



○展覧会概要

人の目をあざむくような美術作品、その系譜をたどった「だまし絵」展は、2009年に東京・名古屋・神戸で開催され、75万人を超える入場者を記録しました。今回、その続編として、「だまし絵Ⅱ」を開催します。

本展では、アルチンボルドらの古典的な作品を冒頭で展示しつつ、20世紀以降の現代的な表現を幅広く紹介します。現代の美術は、素材や技法、内容においても多様化し、そのなかで「だまし絵」的な表現も進化と変貌をとげています。現代のだまし絵的作品は、アーティストから私たちへの挑戦であり、問いかけでもあると言えるでしょう。

ダリ、マグリット、エッシャーら20世紀の巨匠から現在活躍中のアーティストまで、様々な仕掛けをもつ作品群を、家族そろってお楽しみください。

- 1 会 期 2014年10月15日（水）～12月28日（日）
月曜日 ※ただし、11月3日（月・祝）、11月24日（月・振休）は開館し、
11月4日（火）、11月25日（火）休館
- 2 開館時間 10:00～18:00
※金・土曜日は夜間開館（20:00まで）
※入場は閉館の30分前まで
- 3 会 場 兵庫県立美術館 企画展示室
- 4 主 催 兵庫県立美術館／産経新聞社／関西テレビ放送／神戸新聞社
- 5 後 援 兵庫県／兵庫県教育委員会／神戸市／神戸市教育委員会／
サンケイスポーツ／夕刊フジ／サンケイリビング新聞社／
ラジオ大阪
- 6 協 賛 一般財団法人 みなと銀行文化振興財団／大伸社
- 7 協 力 スイス インターナショナル エアラインズ／日本貨物航空／
日本航空／ルフトハンザ カーゴ AG／ホテルオークラ神戸
- 8 観 覧 料 一般1,400（1,200）円、大学生1,000（800）円、
高校生・65歳以上700（600）円、中学生以下無料
※（ ）内は、前売および20名以上の団体割引料金
（高校生・65歳以上は前売なし）
※障がいのある方とその介護の方1名は各当日料金の半額
（65歳以上を除く）
※割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中に美術
館窓口で入場券をお買い求めください。

※県美プレミアム展の観覧には別途観覧料金が必要です。

(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)

※主なチケット販売場所：公式サイト上のオンラインチケット、JTB各支店・総合提携店、コンビニエンスストア、ほか京阪神のプレイガイド

※コンビニ商品番号 前売券：0237856 当日券：0237857 ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルKサンクス、各店で販売。番号は全コンビニ共通。

※前売券は10月14日（火）まで販売します。会期中は販売しません。

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

○覧会構成

2009年に開催した「だまし絵」展は、美術の歴史における「イリュージョン」の効果に注目し、見る人の目をあざむくような技法に焦点を当てた作品の系譜を、古典的絵画から近代を経て現代美術にいたる歴史的な流れのなかで紹介する試みでした。その続編となる本展では、多岐にわたり「進化」していく現代美術の展開に重きを置き、古典的傑作を集めたプロローグに続き、現代の新しい「だまし絵」における挑戦を、視覚的詐術によるカテゴリーに分類して展観していきます。

プロローグ

「だまし絵」とは文字通り「目をだます」絵の系譜です。人間の視覚に対する科学的探求が始まったルネサンス後期のヨーロッパでは、視覚の力に挑戦するような様々な作品が登場します。ある絵の中に別の像を潜ませるダブル・イメージの傑作、アルチンボルドの《司書》や、壁のくぼみの中に置かれた事物の影に至るまで克明に描写することで、つかの間にせよ、それが「本物」の事物であるという錯覚をおこさせるトロンプルイユの代表作、ピアースンの《鷹狩道具のある壁龕》—こうした古典的巨匠たちが技巧をつくした「だまし絵」の到達点を示す作例は、眼の先入観を打ち破り、観る者を仮象の世界の裏側へと誘っていきます。



1. ジュゼッペ・アルチンボルド
《司書》 1566年頃
スコークrostel城（スウェーデン）

Photo: Samuel Uhrdin

1章 トロンブルイユ

「本物と見まごう」とは、古来より画家の優れた描写力への賞賛のことばですが、イメージが氾濫し、その在り方が驚くほど多様化する20世紀には、「リアリティ」に対する根本的な問いこそが、再び制作の大きな原動力となります。日常目にするモチーフを本物そっくり再現するカズ・オオシロは、巧妙に観る者の目を欺いた後に、その「真の姿」に気づかせるタネあかしも忘れません。床に無造作に置かれたアンプは表面だけが精巧に描かれたもので、後ろに回るとそれが木枠に貼られたキャンヴァスにすぎないという事実をさらけ出しています。名画の裏面を再現するというユニークなアイディアで観る者の眼を欺く、ヴィック・ムニーズの「裏面」シリーズは、実物大ですべてを忠実に再現することで、まるで本物の絵画が後ろ向きに置かれているかのような錯覚を引き起こし、人々の先入観を打ち破ります。



2.カズ・オオシロ

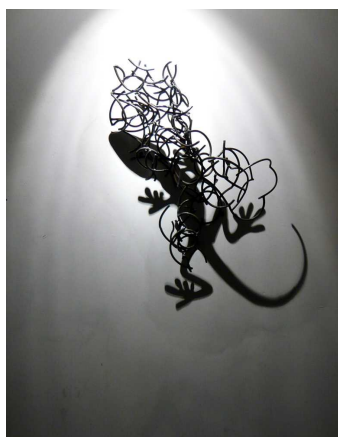
《フェンダー・デラックス・リヴァーブ・アンプ 2》

2009年

Courtesy the artist and Galerie Perrotin

2章 シャドウ、シルエット&ミラーイメージ

美術において「影」や「鏡」は、物体を本物らしく見せるためのいわば引き立て役として取り入れられ、虚構空間と現実世界を巧妙に結びつけるモチーフとして用いられてきました。20世紀後半になると、実体に付随するべきこれらのモチーフを主役に据え、実体から切り離すことで、不在を表現したり、虚像と実体の間の固定観念を打ち破る作品が生まれてきます。福田繁雄の《アンダーグラウンド・ピアノ》では、床に置かれた得体の知れない黒い物体が、鏡像の中ではじめて「正しいかたち」として浮かび上がってきます。一方、ラリー・ケイガンの《トカゲ》では、壁につけられたからみあった針金が、小動物のシルエットに見事に変貌を遂げています。



3.ラリー・ケイガン

《トカゲ》 2008年

トニー&リンダ・ブルーム・コレクション

©Larry Kagan, Courtesy Hirschl & Adler Modern, New York

3章 オブ・イリュージョン

1960年代半ば、オブ・アートと総称される、幾何学的なかたちや色のシステムティックな配置によって錯視効果を引き起こす抽象絵画が注目を集めました。ヴィクトル・ヴァザルリはその代表的な作家の1人で、反復するパターンと色彩のグラデーションによって、脳に画面の上での凹凸を知覚させています。こうした視覚や脳に直接働きかけるイリュージョンへの高い関心は、イギリスのアーティスト、パトリック・ヒューズの作品にも顕著に見られます。「リバーспекティブ」（「リバーズ（反転）」と「パースペクティブ（遠近法）」の合成語）と呼ばれるシリーズは、描かれた情景の遠近と画面の物理的な凹凸とを逆転させることで、観る者が左右に動くにつれてイメージが動き出す（ように見える）という驚くべき仕掛けになっています。



4.パトリック・ヒューズ

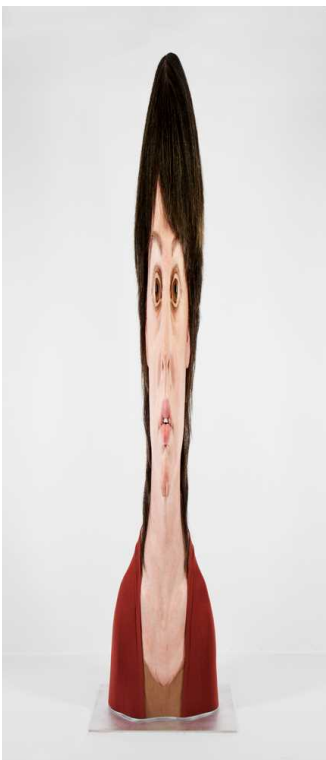
《広重とヒューズ》

2013年 作家蔵

©Patrick Hughes, Courtesy Flowers Gallery, London / New York

4章 アナモルフォーズ・メタモルフォーズ

「遠近法の技法を「逆利用」してイメージを法則的に歪め、一定の視点から見ることで正像を浮かび上がらせるアナモルフォーズの手法。しかしフォト・ショップなどによりイメージの自在な変形が可能な現在においては、「正像」自体の意味が揺らぎだします。エヴァン・ペニーは、極端に引き伸ばしたり、傾斜させたりして歪めた人体を彫刻で制作し、それを現実空間の中に置くことで、我々がイメージの世界でしか起こりえないと思っている出来事を現実の世界に現出させてみせるのです。



一方、距離や見方を変えることでひとつのイメージを別のイメージへと変貌させるのがメタモルフォーズの手法です。シュルレアリストの画家、マグリットの手にかかると、見慣れた個々の事象が、通常とは異なるやり方で結びつけられ、現実にはあり得ない情景が生み出されます。靴と足という似て非なるものを巧みに結びつけた《赤いモデル》では、類似性により両者の異質さを際立たせることで、あたかもイメージ自体が目の前で変容していくような錯覚を引き起こされます。ヴィック・ムニーズがおもちゃの兵隊を実際に並べて作り上げた自画像のインスタレーションを写真に撮った《自画像 悲しすぎて話せない バス・ヤン・アデルによる》は、ダブル・イメージの手法を用いて異なるふたつのイメージを巧みに結びつけることに成功しています。

5.エヴァン・ペニー

《引き伸ばされた女 #2》 2011年

©Evan Penny, Courtesy Sperone Westwater, New York

本展覧会出品作家

クリストフェル・ピアソン

コルネリス・ノルベルトウス・ヘイスブレヒツ

ゲルト・ディットマース

ドウエン・ハンソン

チャック・クロース

杉本博司

ロン・ミュエック

ヴィック・ムニーズ

福田美蘭

トーマス・デマンド

トム・フリードマン

カズ・オオシロ

須田悦弘

レアンドロ・エルリッヒ

田中偉一郎

ゲルハルト・リヒター

福田繁雄

ミケランジェロ・ピストレット

高松次郎

マルクス・レーツ

ラリー・ケイガン

マルコ・バニョーリ

メアリー・テンプル

ダニエル・ローズイン

シール・フロイヤー

ハンス・オブ・デ・ベーク

ヴィクトル・ヴァザルリ

ヘスス・ラファエル・ソト

カルロス・クルス＝ディエス

ヤーコブ・アガム

リチャード・アヌスキウィツ

パトリック・ヒューズ

アニッシュ・カプーア

名和晃平

マウリッツ・コルネリス・エッシャー

ルネ・マグリット

サルバドール・ダリ

フィリップ・ハルスマン

メレット・オッペンハイム

デイヴィッド・ホックニー

フーゴ・スーター

エヴァン・ペニー

伊藤高志

トニー・アウスラー

ロバート・ラザリーニ

○関連行事

記念講演会「だまし絵と錯視」

講師：北岡明佳氏（立命館大学文学部教授）

11月16日（日） 午後2時～（約90分）

ミュージアムホールにて 聴講無料（定員先着250名・要観覧券）

学芸員による解説会

10月25日（土）、11月8日（土）、11月29日（土）、12月13日（土）

午後4時～（約45分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員先着100名）

ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中毎週日曜日 午前 11 時～（約 15 分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員先着 100 名）

こどものイベント「トリック写真を撮りっこしよう」

11 月 1 日（土） 午前 10 時 30 分～午後 3 時 30 分

アトリエ 2 にて 要事前申込

要参加費（定員 30 名、小中学生とその保護者）

お問い合わせ・お申込み：こどものイベント係 TEL 078-262-0908

おやこ解説会

11 月 15 日（土） 午後 1 時 30 分～（約 30 分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員先着 100 名）

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

○お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

企画内容に関すること

担当学芸員: 速水豊・岡本弘毅

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903